

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

- 1 趣旨** 仲間との英語を用いた体験活動を通して、楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。また、安心できる温かい環境の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力の育成を図る。これらのことが自信となり、日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつながることをねらいとする。

2 日程・内容

(1) 期日・参加者等

期日	参加校(学年)	児童	国際交流員等	ボランティアスタッフ
9月5日(月)～6日(火)	邑知小学校(5・6年) 余喜小学校(5・6年)	53名	4名	5名
9月12日(月)～13日(火)	羽咋小学校(6年)	62名	6名	7名
9月14日(水)～15日(木)	粟ノ保小学校(5・6年)	18名	3名	3名
9月21日(水) *台風の影響により1日のみ実施	瑞穂小学校(5・6年)	48名	5名	3名
9月29日(木)～30日(金)	西北台小学校(5・6年)	25名	2名	3名
10月6日(木)～7日(金)	羽咋小学校(5年)	54名	5名	3名

(2) 活動内容

1日目

○Opening Ceremony

児童が英語を使って司会を行った。「Stand straight(気をつけ)」「bow(礼)」等の号令や児童代表のあいさつも英語を取り入れて行った。スタッフの自己紹介後、イングリッシュキャンプで意識して欲しい5つのルールについて伝えた。

○Activity1 「妙成寺 Walk Rally」

羽咋市で現在国宝化を目指している国指定重要文化財である妙成寺の周辺の7つのチェックポイントを巡った。チェックポイントでは、国際交流員やALT(以下「国際交流員等」という)から英語で出された課題をグループで協力しながらクリアした。英語でのコミュニケーションを楽しむとともに、妙成寺についての理解を深めた。課題をクリアし、次のActivity「Shopping Game」の仮想資金を手に入れることができた。



【妙成寺 Walk Rally】

○Activity2 「Shopping Game」

翌日のActivity「野外炊飯(世界の料理)」で使う食材や調理器具等を国際交流員等が開く店に行き、英語や動作を使って買い物した。初めにアメリカドルについて理解を深め、紙幣や硬貨など日本円との違いについても確認した。買い物時に使う基本的な英語表現を確認し、練習した後、一人で買い物に行った。前半は初めに確認した表現を使って買い物をし、後半は値段交渉の表現を追加して買い物をした。



【Shopping Game】



【Shopping Game】

2日目

○Activity3 「野外炊飯(世界の料理)」

学校ごとにジャンバラヤ(アメリカ)、ガパオライス(タイ)を選択し、野外炊飯を行った。使用する道具や食材、調理法についての英語表現を国際交流員等と確認し、英語でコミュニケーションを図りながら活動した。国際交流員からそれぞれの国の料理や食文化についてお話を聞き、異文化理解を深めた。



【野外炊飯 世界の料理】



【野外炊飯 世界の料理】

○Closing Ceremony

児童が英語を使って司会を行った。参加者、国際交流員等、ボランティアスタッフで振り返りを行い、感想を交流した。

(3)事業の実施にあたって工夫したこと

<他団体との連携>

① 羽咋市教育委員会

平成31年3月より連携協定を結んでおり、本事業の内容等について年度当初に協議検討を行っている。今年度は、羽咋市内の小学生に自国理解も深めるために妙成寺に関わる7つのポイントを巡る活動の要望を受け、「妙成寺 Walk Rally」を実施した。実施にあたり、外国人スタッフの確保のために、市内小中学校に勤務するALTの参加等の協力をいただいた。

② 小学校との打ち合わせ

7月から8月にかけて、各小学校の担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュール等について打ち合わせを行った。各学校の実態や要望を聞きながら、活動プログラムを決めた。これまで紙媒体で実施していた事後アンケートを児童が持つタブレット端末を活用し、学校で行った。

昨年度までは、「使ってほしい英語の表現15」を事業の初めに児童に示していたが、今年度より担当の先生方にお願ひし、事前指導で確認していただいた。

<新型コロナウイルス感染症対策>

- ・当初1泊2日で計画していたプログラムを日帰り2日のプログラムに変更して実施した。
- ・グループ活動を5~6名程度にして、密接になる活動プログラムをできるだけ避けた。
- ・参加者のマスク着用、手洗い、手指消毒等の徹底を行った。
- ・食堂利用時や野外炊飯時は、食事中の黙食とした。
- ・参加者の健康観察を徹底した。

<2日間を通した活動の工夫>

① 使ってほしい英語の表現15

「使ってほしい英語の表現15」については各学校で事前指導の中で取り扱っていただいたため、事業では国際交流員等と簡単な練習のみとした。事前指導で学習していたため、正しく意味を理解し、いろいろな場面で自信を持って使うことができていた。

イングリッシュキャンプで 使ってほしい表現15	① ありがとう Thank you.	② ごめん I'm sorry.	③ すみません Excuse me.
④ へえ～ Really?	⑤ なるほど I see.	⑥ いいねえ! That's good!	⑦ 大丈夫 No problem.
⑧ もう一度言って One more time please.	⑨ これは何? What's this?	⑩ わかりません I don't know.	⑪ ～しよう Let's ~.
⑫ 助けて! Help me.	⑬ はい、どうぞ Here you are.	⑭ どういたしまして You're welcome	⑮ 英語でどう言うの? How do you say ~ in English?

② 活動プログラムのつながり

2日間を通して、児童一人一人が意欲的に活動できるように主となる3つの活動プログラムのつながりを工夫した。活動の前に、Activity1「妙成寺 Walk Rally」のチェックポイントで課題をクリアすることで、Activity2「Shopping Game」の仮想資金が手に入り、そのお金で

Activity3「野外炊飯（世界の料理）」に必要な食材や道具を買うことを児童に伝えた。3つの活動につながりを持たせることで、どの活動でも意欲的に活動する児童の姿が見られた。また、課題解決やお買い物の場面では、グループで協力したり、アドバイスし合ったりする姿も見られた。

③一人一人の会話量の確保

子ども達一人一人と国際交流員等の会話量を確保するために活動内容の工夫をした。

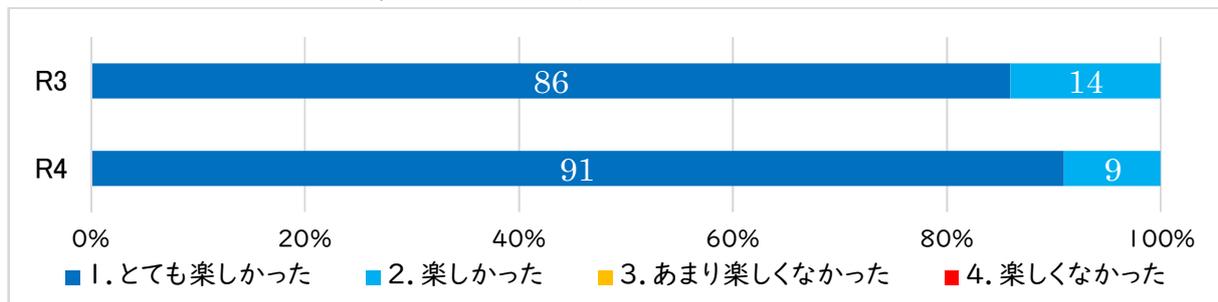
Activity1「妙成寺 Walk Rally」では、児童一人一人が自分の名前や誕生日、好きな色を聞き合うことでクリアできる課題や、国際交流員等と英語で会話することでクリアできる課題を設定した。Activity2「Shopping Game」では、買い物は1人で行くことにした。1回目の買い物では不安な様子も見られたが、回数を重ねることで自信を持って会話し、買い物をする姿が見られた。また、グループ内で待っている児童が買い物場面を想定し、練習する姿も見られた。一人5回程度の国際交流員等と1対1で会話する機会を設定することができた。

3 成果と課題

(1) アンケート結果

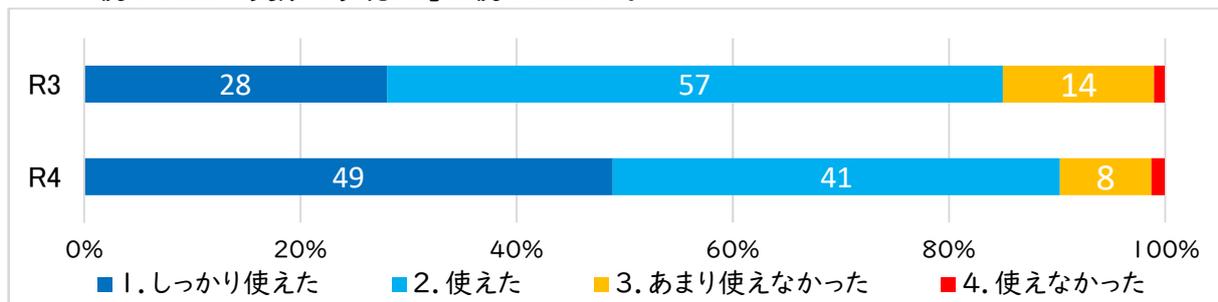
① 事業について

・イングリッシュキャンプは楽しかったですか。



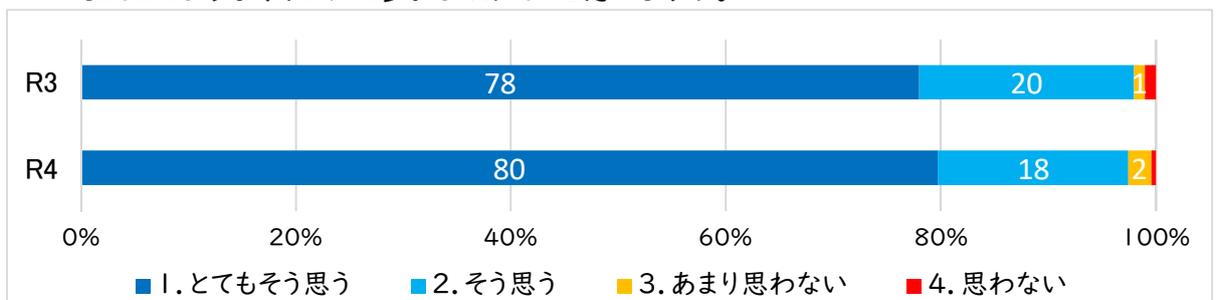
「とても楽しかった」及び「楽しかった」をあわせた肯定的な回答率が100%となっており、楽しく活動できたことがうかがえる。昨年度と比較すると、「とても楽しかった」の割合が増えている。

・「使ってほしい英語の表現15」は使えましたか。



「しっかり使えた」及び「使えた」をあわせた肯定的な回答率が90%となっており、多くの児童が英語を使って活動できたことがうかがえる。今年度は学校で事前指導をお願いしたことにより、昨年度と比較すると、「しっかり使えた」の割合が大きく増えた。

・またこのようなキャンプに参加してみたいと思いますか。



「とてもそう思う」及び「そう思う」をあわせた肯定的な回答率が98%となった。記述式回答にあるが、学んだことやできるようになったことが多く、キャンプを通して自分自身の成長を実感できたのではないかと考えられる。

②外向き志向率、グローバル人材志向率

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、外向き志向率及びグローバル人材志向率に関するアンケートを実施した。

<外向き志向率について>

外向き志向率とは、日本人参加者に対して、文部科学省が定めた調査項目「日本人として世界に貢献したいと思いませんか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いませんか」「交流した外国人と将来も繋がりを持ちたいと思いませんか」の3項目のアンケート結果を集計したものである。そのうち、肯定的な回答の集計から算出した本事業参加者の外向き志向率は、88%であった。(R2 78%、R3 92%)

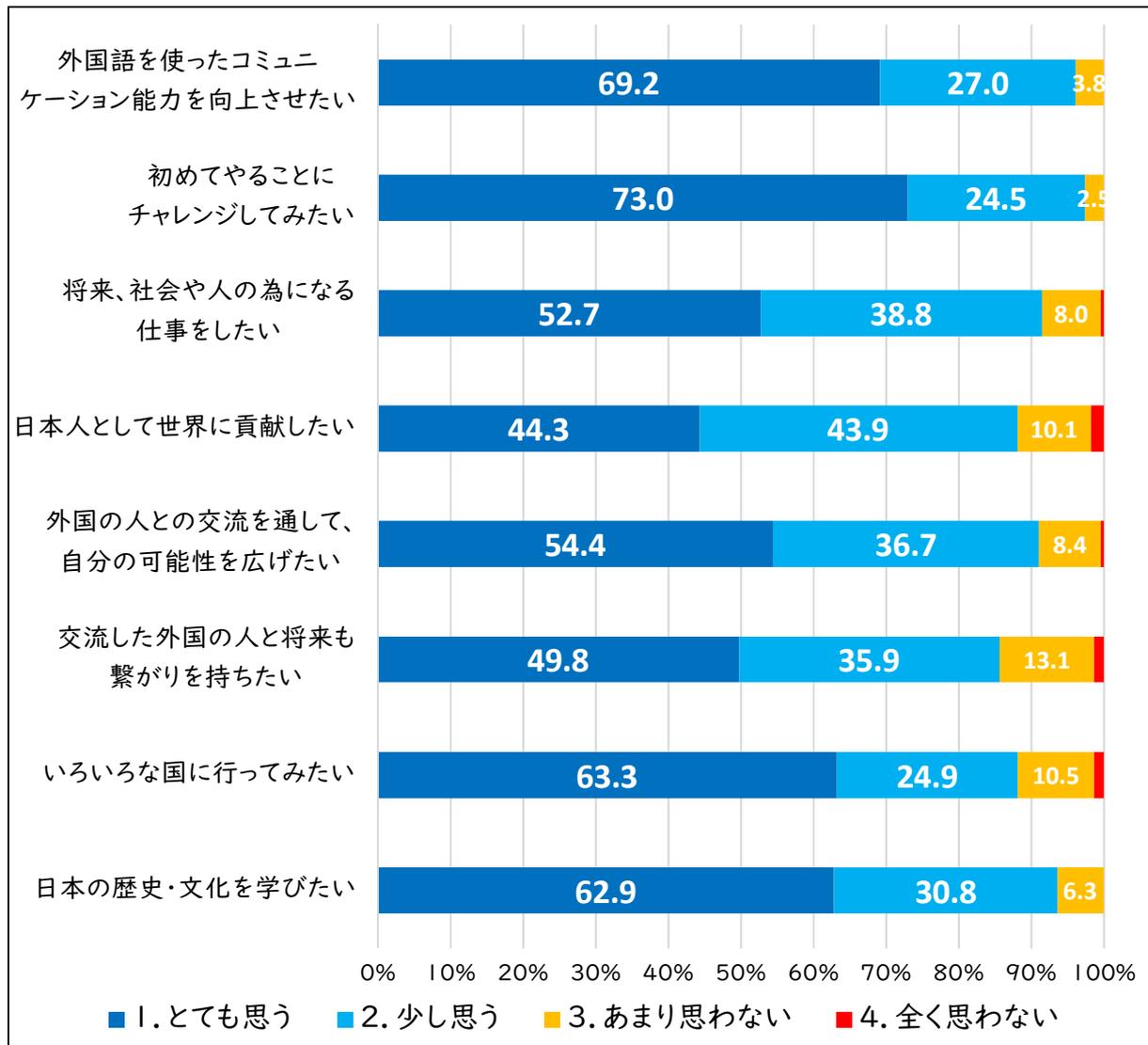
事前と事後の結果を比較すると、事前87.4%、事後88.3%と少し増えた。特に、「交流した外国人と将来も繋がりを持ちたいと思いませんか」の項目で「とても思う」の割合が41.9%から49.8%と大きく増えた。

<グローバル人材志向率について>

国立青少年教育振興機構では、上記の外向き志向率調査に加え、独自に語学力・コミュニケーション能力及び異文化に対する理解と日本人のアイデンティティー等を加えた8項目のアンケートを作成し、「グローバル人材志向率」として、平均80%以上の肯定的回答を得ることを目標に国際交流事業を実施している。

本事業においては、事業後のグローバル人材志向率は、92%であった。(R2 82%、R3 93%)

事前と事後の結果を比較すると、事前91%、事後92%と少し増えた。特に、「いろいろな国に行ってみよう」の項目で、事前82.5%、事後88.2%と大きく増えた。



②参加者の声

【全体】

- ・Shopping game でたくさんの英語を学んだし、ミスをしてしまったこともあったけど「Enjoy making mistakes」を守って楽しめた。来年も English camp があるので今回学んだことを活かしたい。
- ・ドルの使い方、買い物の楽しさ、ジャンバラヤの作り方などたくさんのことを知れた。習ったことを活かして、いろんな国のお金を調べたり、ジャンバラヤを家族に振舞ったりしたい。今回のように楽しく英語を勉強するのもいいなと思った。

【妙成寺 Walk Rally】

- ・同じ班で協力できたし、仲良くできて良かった。最後にゴールしたけど、楽しく Mission ができた。
- ・とても楽しかった。なぜなら7つのミッションを英語で会話しながらクリアしていき、妙成寺付近の歴史が知れたから。

【Shopping Game】

- ・みんなで協力してジャンバラヤの材料と道具を揃えることができてうれしかった。ルール説明で、一人で行くように言われて緊張した。いつもだったら値下げしてと言えないと思うけど、言えたので成長したなと感じた。
- ・一人で行くのが緊張して怖かったけど、1回すると慣れてだんだん楽しくなった。みんなで協力するのも大事だけど、一人でするのも大事と知った。これからも一人でいろんなことに挑戦したい。
- ・値下げの言い方が分からなかったけど、教えてくれたり、助け船を出してくれたりしたスタッフの人、ありがとう。これからも英語がんばるからね。

【野外炊飯（世界の料理）】

- ・ガパオライス作りで、英語で楽しくコミュニケーションをとりながら調理できたのが楽しかった。
- ・ジャンバラヤがどこの料理か分かったし、食べたことがなかったのでワクワクしました。他の班と違う色や味になったので面白かった。家でも作ってみたい。

【スタッフ（国際交流員・学生）との交流】

- ・イングリッシュキャンプを通して笑顔で顔を見て楽しく会話する力を見つめることができた。ボランティアや外国の先生が、間違えて優しく教えてくれたので、とても話しやすかった。
- ・外国の先生方と仲良く話すことができた。ウォークラリーのミッションで、外国の先生方も友達も私もみんなで出身国関係なく笑えてすごくうれしかった。

【自己成長】

- ・外国の文化を知ることができ、興味深かった。学校のオンライン英会話や英検3級をがんばりたい。
- ・英語を使って楽しく活動できた。今まで習った英語をつなげて、自分で何とか言おうとできたので良かった。今までは言えなかったら友達やスタッフに聞いていたけど、今回のイングリッシュキャンプで成長できて良かった。

③引率者の声

- ・たくさん英語を使うことができた。一人で買い物をするようにしたことが良い。
- ・学校での既習表現を使っただけの活動であったのが良かった。
- ・一人一人が発言する機会が保証されていた。「値下げ」の mission が追加され、子どもの意欲が高まり、発話量が増えた。
- ・ボランティアスタッフの子ども達を支えようとする姿が良かった。

(2)成果

- ・外向き志向率が88%、グローバル人材志向率が92%と高い数値を示していることから、本事業の活動プログラムは児童の外国語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高めるとともに、「外向き志向」向上に有効であったと言える。
- ・昨年の「妙成寺見学」に引き続き、「妙成寺 Walk Rally」を取り入れたことにより、地元羽咋市の文化財について興味関心を高め、理解を深める機会となった。
- ・各小学校で「使ってほしい英語の表現15」について事前指導の中で取り扱っていただいたため、「しっかり使えた」及び「使えた」児童の割合が増えた。また、児童が国際交流員等と1対1で会話する機会を意図的に設定したことで発言の機会が保証された。これらのことにより、英語でコミュニケーションをすることの達成感を感じ、自信を持つことができたと考えられる。

- ・班付ボランティアスタッフを、ボランティア養成セミナーを受講した法人ボランティアに限定したことで、児童に対しての英語を使った積極的な関りが増えた。

(3)課題

- ・昨年、一昨年に続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、1泊2日の日程を2日間の日帰り日程に変更した。日程の変更により活動時間が減少し、「Opening Ceremony」での自己紹介やアイスブレイクの時間が減ってしまった。
- ・児童が国際交流員等と1対1で会話する機会を意図的に設定したことにより、英語に苦手意識を持つ児童にとって不安を感じることにつながった。「Opening Ceremony」で「Enjoy making mistakes」などのルールをしっかりと共有する必要がある。
- ・班付ボランティアスタッフを、ボランティア養成セミナーを受講した法人ボランティアに限定したことで、各回に必要なボランティア数を確保することができず、施設職員の負担が多くなった。来年度はボランティア募集について広報時期などを改善し、確保する必要がある。
- ・暑い日に実施することが多く、「妙成寺 Walk Rally」では熱中症が心配された。熱中症対策セットを準備し、児童の健康状態に注意しながら実施したが、各チェックポイントで日陰を作るなどの対策が必要であった。